

# 瑞雲

直方鉄工青年会

第31号



## 会長就任に 当って

第16代会長

高野浦 篤

鉄工青年会も昨年15周年を終り、20周年に向けて第一歩を踏出したわけですが、過去先輩諸氏の残された功績は大きく、責任の重大さを痛感致しております。

しかし、先輩諸氏の残された功績をけがさない様一生懸命頑張りたいと思いますので、どうか温い御指導と御協力をせつをお願いいたします。

私は今年度3つの目標をかかげました。

第一に「友情と規律」

規律のないところに友情は育たないと思うからですこの鉄工青年会は、特に同種企業の集りだけに、お互に助け合い、結ばれていかねばならない。

第二に「オーナーとしての自覚と修練」

一口に申しますと、自分に厳しく、他人に寛大に、言いかえると常に人の事を考え、誠実で人間的な優しい経営者であること。

我々も現在のところ、中途半端な人間の集りではないかも知れませんが、今から互いに手を取りあい勉強していきたいと考えております。

第三に「他の団体との交流を密にし互いの意識を高めよう」

我々の団体はあくまでも親睦団体ではありますが、会が年を加えるごとに大きくなり、力も出来てきますと好むと好まざるにかかわらず、色々な仕事が出来てきます。そういう意味でただ鉄工業界だけの集りというだけでなく、今後は他の団体と接触しながら、会員一人一人が自己の修練と会の発展になる事なら、自信をもって参加していただきたいと思います。

月並な挨拶になりましたが、目標の一つでも御協力があれば、自己の発展、会の発展に結びつくと思っております。

最後に、健康でなくては何事も出来ません。自分の健康に充分注意されまして、この1年間の御協力をお願い申し上げます。

今年度会長スローガン

- (1) 友情と規律
- (2) オーナーとしての自覚と修練
- (3) 他の団体との交流を密にし、互いの意識を高めよう
  - 中国と手を結ぼう
  - 会員の拡大に努めよう

## 激動の80年代を乗り切ろう！

### 副会長 半田 景久



わが鉄工青年会も、創立15周年記念式典を無事終了して16年目に入りました。次は20周年を目標にばく進するのみです。

国政においては衆院の解散により、6月22日にわが国初めて衆参両院の同日

選挙が、実施される事になって80年代は、予測の困難な不透明の時代といわれてきたが、参院選挙に焦点を合わせて準備を進めてきた5大政党も、その対応に忙殺されていると思う。

国外においてはソ連の対アフガンの武力行使、イランのアメリカ大使館員人質、申韓国内閣総辞職等、国内、国外情勢判断しましても、多難な1年ではないかと思えます。

こういう大変な時期に副会長として、高野浦会長の女房役をお引受けすることになりました。受けた以上は、入会して8年余りの間、青年会より得た体験を生かし、微力ながら頑張る覚悟であります。

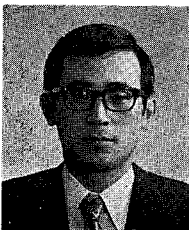
総務委員会、広報委員会担当ということですが、吉田、藤永両委員長と綿密な連繋をもち、会の発展の為努力致します。

会員の皆さんよろしくお願い致します。

## 翔んでも 翔ばない

### 一見つめよう足元を！！

### 副会長 内 藤 剛



数年前より1980年代は“激動の時代”“翔んでも翔ばない時代”と云われ続けてきましたが確かに国内、外を見渡すと、それはそれは大変な時代であると云うことは、会員諸君も充分熟知していることでしょう。

以前は目標を短期、中期、長期と建て、その目標に向かって進んでいた時代は、当の昔のこのようになってきた感がある。

激動の経済環境に対応する為、短期計画もその都度修正、修正を余儀なくされる状態です。“鍛えよう体を（企業体）”“鍛えよう頭脳を（経営者としての自覚）”これを目指すのが青年会本来の目的であり、姿ではないだろうか。

オイルショック以後長期にわたっての不況に、やっ

と薄明りの見えてきた現在、企業体力の回復を目指し大いに張切っていきたいものです。

好況があれば、必ず不況がやってくることは、誰もが解っている。二度と味わいたくない前回のような状態での長期不況！！

好況時に不況時のことを真剣に対処し、不況時に好況の対策を考え、常に一步でも半歩でも、僅か1センチでも前進するよう、自分自身を鍛え、企業の安定を計り、そして従業員の生活安定、向上を目指し、忍耐と努力（私の座右銘）で頑張りたいものです。

青年会活動や地域への貢献も、企業が安定して初めて出来ることであり、両足を大地に踏ん張り、原点を足元をしっかり見つめる良いチャンスでもないだろうか！！

激動の時代に対しての適確な状況判断を忘れないよう“翔ぶのも勇気、翔ばないのも勇気”

最後に担当している経営委員会は、今年、特に燃えている、我々青年会員がプロの経営者となるように、いろいろな研修会、講演会等を意欲的に計画していきたい。

（森山委員長をはじめメンバー諸兄頼みますヨ！！）

それに厚生委員会は若い田島委員長を筆頭にメンバー全員が会員、家族及び従業員の心を一つにまとめるような行事を多数計画遂行する為、非常に張切っている是非全員で諸行事に積極的に参加し、盛上げてもらいたい。（全会員諸君ノ頼みますヨ！！）

## 若い会員を役員へ

事務局長 村井 武久



鉄工青年会も満15周年を  
経過し、又新たに20周年  
を迎えるべく新しい年度へ  
と出発しました。

本年は高野浦会長のもと  
25名の役員で構成されて  
いますが、今年の役員構成  
の特色は、年令の若い会員

又青年会に入会して間もない会員の方々が、多数含ま  
れているということです。

これは今迄にない傾向だと思いますが、これも永い  
間青年会の役員として経験してこられた新会長の考え  
の一つであろうと思われます。

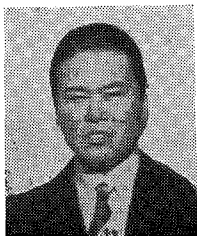
えてして会を手堅くまとめようとするあまり、同じ  
会員が役員を続ける傾向がありますが、本年を機会に  
これからの会長は、若い新しい人を役員に起用される  
べきだと思います。

思い出せば10周年の時、弘会長（現会員の兄上）  
が起用された役員の数以上は20才台のものばかり  
でしたが、会長の指導のもと結構うまくいったもので  
す。

若い会員を経験のつんだ会員同士のキタンのない意  
見の交換が、これからの鉄工青年会の発展に欠く事の  
できない一つと考えます。

## 全員参加の鉄鋼青年会に！

新入会員育成部会長 渡辺 泰輔



高野浦新会長の新しい構  
想として、今年度4つの部  
会が設けられ、そのうちの  
1つ、新入会員育成部会を  
受けもつ様になりました。

名称は新入会員育成部会  
ですが、新入会員と云うよ  
りも鉄工青年会全体の問題

ではないかと感じています。

「まず例会にしても毎月第3水曜日と定められてい  
るのに、出席率はもう一つ、集合時間は守られている  
か、又仲間であっても（親しき仲にも礼儀ありと云う  
ように）先輩、後輩のけじめをつける時にはキチッと  
つける。お互いの挨拶又、例会や講演会等、人の話し  
を聞くときの態度はどうか」「この様な事を君はきち  
んと出来ていますか？よく考えなさい」と云う意味で  
私にこの役が回って来もたものと信じています。

会員の皆様も私と一緒にもう一度原点に立って、自  
分自身を見直し反省すべき点はすぐに反省して、より  
よい鉄工青年会を育てようではありませんか……。

最後に何も考えずに出来ること……それは先ず毎月  
第3水曜日の例会に出席することです。皆様のご協力  
をお願い申し上げます。

【忙 中 閑】…ゴルフに関する笑話を2つ…。

ゴルファー間によく知られた警句に「ゴルフとは恋  
愛に似ている。やってみないと、その“素晴らしさ”  
は分らない」とか「決して思う壺にはまらないもの、  
よい例がゴルフの球」また「ゴルフとは失望に区切ら  
れながら、歩み続ける長い道程」などがある。

ひところ、「ネクスト・ナインティーンズ・ホール」  
という言葉も流行した。午後の半日を楽しくゴルフ場  
で過した男が、ゴルフ場から逢いたいと電話をかけて  
寄こした時には、ガールフレンドたる者、用心すべき  
である」という事である。賢明なる諸兄のご経験やい  
かに…。

こんな話も耳にした。ある友人の歯科医さん、ゴル  
フバッグを肩に電話口で「今日はもう約束で一杯です  
何しろ、お昼からホール（穴）を18もつめなければ  
なりませんのでね…」

# 経済評論家 土屋清先生の 講演会に参加して

テーマ、「80年代の経済のゆくえをさぐる」

鉄工青年会経営委員長 森 山 元



【熱弁をふるう土屋清先生】

6月3日直方市民会館本館大ホールで、直方市をはじめ12団体共催によります、時事放談等でおなじみの経済分野の最高権威者である土屋清先生をお迎えしての経済講演会に、共催団体の1つとして我が青年会も参加しました。

当番幹事と致しまして僭越ですが、私が進行係を務めるようになりました。

何しろ初めての経験でしたが、経営委員会のメンバーの励しと会員の皆様の御協力によりまして、無事遂行出来ました事を紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

厳しい経済環境のもと80年代に突入して参りましたが、中東を始め世界の動向は非常にきびしい情勢にあり、日本経済に大きな影響を与えておりますが、これから先の一つの道標と致しまして先生の講演を拝聴致しました。

日本経済はここ数年間石油に引き廻されていると言っても過言ではありません。80年代もこのエネルギー危機のもとに進んで行くことが懸念されます。これ

は石炭から石油へと移行した、エネルギー革命にもとづくものです。

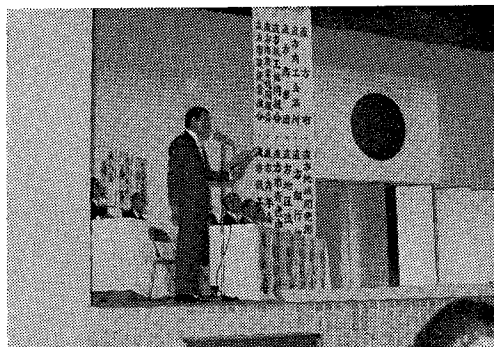
先生は「油上の楼閣」と表現されましたが、日本経済は、この油上の楼閣で成り立って居ります。今から先はこの油上の楼閣を齎されながら移行して行くことでしょう。

でも石炭資源から石炭液化、核融合（海水から重水を取るそうです）と、新しいエネルギーも数拾年後には出来そうですから、現在の我々は省エネと、良識ある消費者の判断を持って対応して行かねばならないと思います。

先生の講演を拝聴致しまして、この厳しい経済環境の80年代に、衆参両議員の同日選挙と、この激動の年代のトンネルの前方に何か明るい日差しを見た様な気持ちでした。

皆様と共にこの80年代の荒波を、先生の講演の言葉を良くかみしめて、一步、一步前進していきたいと想います。

（なお講演会をテープにて記録して居ります）



【司会を務める森山君】

# 『鉄工団地と隣接地』

—特に公害関係を中心に—

明神池工業団地協議会会長

浅田 潔

私の手許にある戦前の辞書に「公害」という語句は見当たらない。敗戦後、日本国民は、豊かさを求めて時間を忘れ、周囲への配慮もかまわず働いた。食を求め、衣をさがし、住をつくって30有余年、エコノミックアニマルと批判されるまでつっ走った。あつと気がついてみたら、世界屈指の経済大国にのし上っていた。その落し子の一つが「公害」である。

80年代の通産省は、そのビジョンとして三本柱を立てている。「経済大国としての国際的貢献」「資源小国の克服」そして三本目に「活力とゆとりの両立」として「心の問題」をとりあげていることに注目したい。

日本人は豊かさを求めてチャレンジした。その結果種々の公害を生み出し「豊かさの結果へのチャレンジ」が始まっている。このことに気づいている人は多いと思うが、この問題に真剣に取り組もうとしている人は案外少ないのではないかと思う。公害が私たち人間生活の隣り合わせに住んでいるために、一步間違えば、相方死活問題にまで発展することは、今までのことの事実が物語っている。

経済大国への発展を願って、鉄工業、重工業はその主人公としてあらゆる力を駆使し、直方鉄工業界は、その先兵としての役割を果たしてきたものの、深刻な不況に見舞われ、特定不況地域の指定を受けている。指定は受けたものの、救済措置は少なく、倒産も相次ぐありさまである。

役割りを果たし、社会発展への奇与には、特に公害に一段の神経を使うべきで、人間生活の破壊は許されないものとして、国の政策である工場移転については積極的に従ってきた。

排水、汚水、騒音等の公害を避け、またその環境をつくらないため、国の保護下の許に、移転企業として計画実行したとはいいいながら、当然、諸規制を受け、種々の負担、犠牲を払い、地域社会への貢献を最大の条件に組み入れての移転であった。

この工場移転10年も過ぎない今日、工業団地の隣

接地に、住宅地としての開発が始まったのである。しかも、市の住宅供給公社が、市の財政難のため、51年に民間に売却といったオマケつきである。本当に首をかしげたくなる現象と云える。

行政のむつかしさもあり、理解出来ぬこともないが一貫した行政の中で、私たちは生活の基盤を見つけ出し、新しいよいものを築き上げていきたいのである。このような事が起きるのは、政治をあづかる人達の感覚の問題であり、公害排除の先頭に立って問題解決をすべき指導者が、公害を呼び込む種をまくとは、全く考えられぬことだし、いくら地方の時代とは云え、とんだ地方の時代の産物であると思う。

とは云ったものの、現実の問題解決として、移転企業の私たちは、公害にかかわるトラブルは断固として避けねばならないし、事前に解決したいものである。

民間レベルでの話し合いはむつかしいため、市、県国への陳情を重ね、解決への糸口に苦慮している。幸に、直方商工会議所、直方鉄工協同組合の支援を得て問題処理に努力を重ねている。本年3月の衆議院予算分科会で、この問題もとりあげられ、一步一步解決への道を進んでいるといえる。

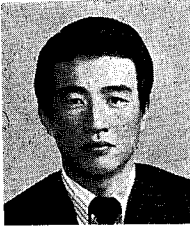
昨年10月第1回の市への陳情から再三にわたって精力的に、関係担当課(市、県)へのアタックをくりかえし、この苦勞が徒勞に終わらないためにも人々の協力、理解をお願いしたい。そして、本質的に「公害」の問題は、私たち生産者の責任のみに止まるような結果にならないよう訴えていきたい。

私は、鉄工界に身を投じて40年になる。考えてみれば、私の人生において、何かが終わろうとしている年令でもある。何かが始まろうとする人、何か始めなくてはならない人たちのために、何かを残し、伝えなければならない義務が、現在の私に課せられていると思う。

予期もせぬ今回の工場団地と隣接地の問題には、私なりに勉強不足もあり、情報不足の面もあると思う。与えられた条件の中で、最大の効果をあらわすためには、周囲の条件、政治の動き、社会の変化等、常に細心の注意を払ってもなおこと足りない複雑な社会になっていることを知ってもらいたい。

直方鉄工青年会は、徐々にその基盤も丈夫になり、不況なるが故に、会員同志の結びつきも強く、より質の高い活動が目に見え、世間の評価も高くなっていることをよく耳にし、喜ばしい事である。

お金を儲けることにしても人の力はいる。今は基盤づくりにもっと人の力を必要とする時代である。特にクロスオーバー的人間関係のあり方が呼ばれる今日、より一段の鉄工青年会の結びつきが、今後の鉄工界の発展のカギを握っているとも云える。



# 「中国と手を結ぼう」

日中友好促進部会長

南 重 行

偉大なるお隣りの国、中国。数千年の歴史と日本の2.6倍もの広大な国土を持つ中国。そして無限の魅力と秘めている中国。そんな素晴らしい国、中国と手を結び友好を深め、日中両国民の限り無き発展という、そんな広大なスケールをいだいて鉄工青年会にも高野浦会長の英断により、「中国と手を結び日中友好をはかろう。」をスローガンに日中友好部会が発足しました

しかし目標が目標だけに、本年度中結論がでるというものでもありません。少なくとも2～3年の長期に渡り活動を進める方針です。

日中両国が手を結び友好を促進する為には、日中友好の基盤となり、経済、産業、文化、教育等の交流のすべての窓口となる日中友好協会の御協力なしでは活動が成り立っていきません。にもかかわらず筑豊3市において協会の支部が無いのは直方市だけです。飯塚市は350名、田川市は550名の会員により設立されていますし、福岡県内の市単位で協会支部が無いのは直方市だけなのです。

その活動を例にとってみますと、協会を窓口として福岡市は広州市、北九州市は旅大市、久留米市は合肥市、大牟田市は大同市と各々友好関係を結び、積極的に漁業、工業、その他諸産業及び文化の面で幅広く交流を深めています。

特に石炭と鉄工の町である直方市と類似点の多い大牟田市は三井三池工作所を中心として、大同市の基幹産業である石炭産業の近代化と合理化の為に必要な機械類の輸出を行なうという素晴らしい活動を示し、大牟田市の経済発展の為に大きく貢献しています。

従って、直方市においても早急に、市役所、市議会、商工会議所、鉄工組合、建設組合、その他の多くの皆様方の御協力により、日中友好協会の設立がぜひ必要だと思えます。そして協会が発足すれば、協会を通して相互の交流が始まり、友好関係が大きく促進されるものと思えます。

特に現在中国においては、4つの近代化という大事業が進められ、新しい国造りがスタートしています。

又5月には日中友好と近代化の為に十億の人民の偉

大なる指導者である華国鋒主席が来日され、友好の絆は更に強くなりました。この様な時期、直方市においても協会が先頭に立って友好を深め、訪中国を結成し生まれ変わる中国をこの目でつぶさに見る必要があるのではないのでしょうか。そして現在の中国を十分に理解し、友好を促進し、両国相互の発展に寄与しなければならぬと思います。

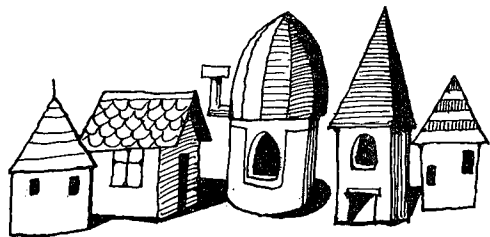
特に産業、経済においては全体的な規模の開発援助は国が行なうが、小規模のそれは省、市、町単位で進めようとしています。この様な昨今、直方市としても腕をこまねて見ずにはいかぬと思います。日中友好を深めると共に、相互の発展を促進していく様な措置を講じるべきではないでしょうか。

例えば筑豊の土地柄を生かす意味で、現在問題になっているエネルギーの石油からの転換として注目をあびている石炭のガス化という分野に、石炭埋蔵量の豊富な中国と手を結び、技術援助等で、石炭産業の近代化に協力し、それを通じて相互の発展向上に努めるといふのはどうでしょうか。

(戦前、貝島炭鉱が開発をしかけた、中国石家荘から汽車で3時間余の井経鉱区と友好を結ぶというのも一案です。)

とにかく今迄述べました友好を深め、相互発展の為の協力も、その窓口となるべき機関がなくては、どうにもなりません。その為には直方日中友好協会を1日も早く設立していただき、友好の窓口とすべき必要があると思えます。

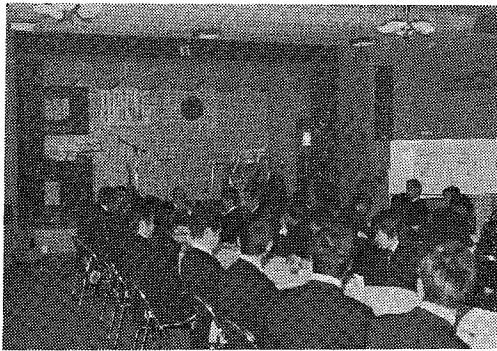
どうか皆様方の御協力により強力な友好協会が設立されます様、宜しく御願い致します。



# 昭和55年度(第16回)通常総会議事録

— 55年4月19日 陵江会館にて —

- 開 会 宣 言 高野浦 昭和55年度会長
- 会 長 挨 拶 内藤博俊 昭和54年度会長
- 総 会 の 成 立 会員数56名×% = 36名  
出席者49名“成立”(委任状5通含む)



## ◦ 議 案 審 議

1. 議長選出 山本忠志
2. 審議事項

第1号議案 昭和54年度事業報告承認の件  
 総務委員会 南委員長  
 厚生 ♪ 渡辺 ♪  
 経営 ♪ 坂田 ♪  
 広報 ♪ 松井 ♪

<採決> 賛成48票、反対0票、棄権1票にて可決承認

第2号議案 昭和54年度決算報告承認の件  
 会計報告 西尾会計欠席(出張不在)の為、南総務委員長代行  
 監査報告 石橋監事

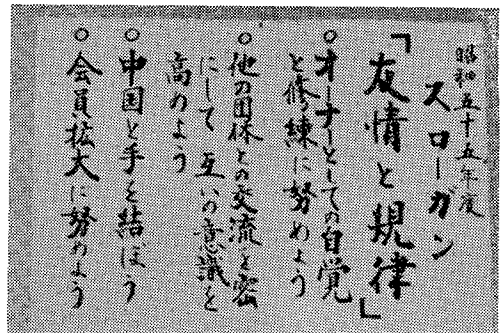
<採決> 賛成48票、反対0票、棄権1票にて可決承認

第3号議案 昭和55年度事業計画案承認の件  
 総務委員会 吉田(幸)委員長  
 厚生 ♪ 田島 ♪  
 経営 ♪ 森山 ♪  
 広報 ♪ 藤永 ♪

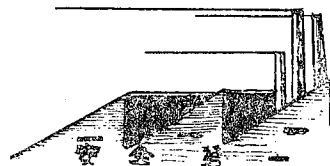
第4号議案 昭和55年度予算案承認の件  
 嶋津会計より説明

<採決> 第3号議案及び第4号議案一括採決  
 賛成48票、反対0票、棄権1票にて採決承認

- 卒 業 者 紹 介 石橋勲、堀尾斉両君へ内藤会長より感謝状贈呈
- 褒 賞 卒業記念 石橋、堀尾  
 委員会褒賞 南、坂田、田島  
 特別賞 堀尾  
 皆勤賞 春田、嶋津、渡辺、村井(武)  
 倉田、南、松井  
 新人賞 窪田、得居、吉田(裕)、村井(昇)
- 昭和55年度会長挨拶 高野浦新会長  
 スローガン 「友情と規律」
  1. オーナーとしての自覚と修練に努めよう
  1. 他の団体との交流を密にして互いの意識を高めよう
  1. 中国と手を結ぼう
  1. 会員拡大に努めよう



- 昭和55年度直方鉄工青年会組織発表  
 村井事務局長より説明
- 閉 会 宣 言 昭和54年度弘副会長



# 昭和55年度事業計画及び予算案

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	委員会別予算
総務	総会	例会	例会	例会	OB例会	例会		例会		新年例会	例会	例会	1,500,000
経営		セミナー (労基署)		セミナー (県商工課)				セミナー (市長)			セミナー (小宮氏)		50,000
厚生		登山	レクリエーション	まつりくらじ		ソフト大会	懇親旅行		忘年会				650,000
広報			瑞雲発行				瑞雲発行				夫婦同伴	瑞雲発行	300,000
												まつりくらじ	100,000
												特別委員会	200,000
												事務局	300,000
												予備費	140,000
<b>55年度予算総額 3,240,000円</b>													

## 昭和55年新役員紹介

会長	高野浦 篤	
副会長	半田 景久	
〃	内藤 剛	
事務局長	村井 武久	
副〃	高瀬 武法	
会計	嶋津 秀生	
監事	井上準一郎	
〃	山本 忠志	
〃	内藤 博俊	
総務委員会	委員長 吉田幸太郎	
	副〃 石松 徹也	
広報委員会	委員長 藤永 敦彦	
	副〃 倉田 義重	
厚生委員会	委員長 田島 悦郎	
	副〃 吉田 裕司	
経営委員会	委員長 森山 元	
	副〃 窪田 輝幸	
特別事業部委員会	委員長 高野浦 篤	
組織運営研修部会	部会長 弘 信之	
	剛〃 岩野 博之	
新入会員育成部会	部会長 渡辺 泰輔	
	副〃 高倉 定	

公害問題研修部会	部会長 浅田 毅
	副〃 坂田 幸一
日中友好促進部会	部会長 南 重行
	副〃 阪 和彦

### 編集後記

●衆議院の突然の解散で衆参両院選挙が6月22日行われる為瑞雲発行が遅れるのではと思われたが、なんとか6月例会日に間に合わせる事が出来た。すべり込みセーフ！というところ。選挙においても会員各位が応援されている立候補者がすべり込みセーフ！であることを祈っています。

●去る5月13日筑豊会館において開催された徳州会々々長徳田虎雄氏の講演を聞かれた方々は、現代の医療行政及び医療制度のあり方について、不満や疑問を持たれたことと思う。私達はこれまで生命ある限り医師を信じ、疑う余地を知らなかった。もし、徳田氏の云われることが真実なら、これからは本当に地域住民の為になる、よりよい医療制度の改革を目指す様努力することが必要だと思う。

発行所	直方市殿町直方鉄工協同組合内 直方鉄工青年会 TEL②3241
発行日	昭和55年6月18日
号数	第31号
編集者	広報委員会(長) 藤永 敦彦
印刷	大同精版印刷機 TEL②0878